

## 薬局における在宅医療、看取りへの関わり

(株)ファルマ 弘前調剤センター 阿保 香織

## 在宅医療における保険薬局の役割

- ▶ 医療用麻薬を含む全ての医薬品や医療機器、衛生材料の供給
- ▶ 臨時処方への対応
- ▶ 処方設計や医薬品投与方法の提案
- ▶ 他職種との連携



## 当薬局における流れ(PCAポンプ使用の場合)

病院より持続皮下注使用の旨と使用薬品の連絡



処方箋、PCAポンプなどのセット(院外処方できない薬品)を受け取りに行く



調剤



訪問看護に連絡、引渡し。他に薬があればその後訪問

## 事例紹介

- ▶ 56歳 女性
- ▶ 左尿管癌(stageⅣ)、転移性肺腫瘍、転移性骨腫瘍、癌性胸膜炎、転移性肝腫瘍
- ▶ 2018年3月つわり症状あり近医受診。8月上記診断。9月より抗がん剤治療。10月に新規肺転移、化学療法継続は希望されず。2月に骨転移による脊柱管狭窄症を認放射線緊急照射開始。脊柱固定のため固定具装着開始となる。3月BSC方針となり、本人より自宅退院希望。
- ▶ 夫、長女、次女、三女。主介護者は長女、次女。
- ▶ 友人も多くお話し好き。娘や孫ともっといたいと涙することも多かった。
- ▶ 母が帰りたい、家で死にたいという思いを尊重したい。

## 使用薬品

▶ 4/13

コデインリン酸塩錠20	3T	ナイキサン	2T
酸化マグネシウム	3T		分2
プリンペラン	3T	ゾルピデム	1T
ミヤBM錠	3T		分1
	分3		
デノタス	2T		
ネキシウム	1T		
チラージン	2T		
	分1		

- ▶ 4/26 ナイキサン 2T→6T、カロナール頓服追加。
- ▶ 4/30 オキシコドン5 2T、オキノーム散2.5追加。
- ▶ 5/2 オキシコドン5 3T、オキノームは痛くなりそうだと思えば服用させており痛みは落ち着いている。
- ▶ 5/16 オキシコドン25-15→20-15、リリカ増量。意識が飛んでいる。
- ▶ 5/21 オキシコドン20-15→20-20、オキノーム2.5→5。腰痛↑、立てなくなってきた。オキノーム5は2時間おき、1時間で必要な時は2.5mgを。

- ▶ 5/23 サインバルタ20、セレコックス、カロナール追加。食事はパン一口、ヤクルト1本。
- ▶ 5/27 オキシコドン30-30→25-25。せん妄が強く出た。
- ▶ 5/29 PCAポンプ。呼吸苦しそう、水分摂れない。
- ▶ 5/31 デカドロン錠追加

## 6/3カンファレンス開催

- ▶ 病状の変化にどのように対応していくか、長女より一度落ち着いて話をできる場が欲しいとの希望に応じて自宅でカンファレンスを開催。
- ▶ レスキューの回数  
5/31 23回、 6/1 25回、 6/2 19回
- ▶ 痛みの訴えがある時(15分だったり1時間だったり)と、訴えがなくても1時間位経てば押すことが多い。もうろうとしていて焦点が合っていないかたり幻聴が聞こえている。薬の量を増やしたらいいんじゃないかと言われるが、今の状態で会話できる時もあるし、このままでもいいんじゃないかと思うんですけどね

...

### ▶ 『会話できる時もあるし...』

→薬を増やすことで会話できる時間がなくなる可能性は高い。娘の希望は母親に痛みがなく、かつ家族で会話できる時間を少しでも持つこと。

➡ 本人は眠っていても痛みのない状態を希望。本人と家族の間にずれがある。

▶ 6/4の10:30に増量したものに切り替え。16:00訪問。

『薬を増やしたからずっと寝たままになるんだろうなと心配していたが、意外に起きていて普通に話もできたしレスキューもまだ1回しか押していない』と少しほっとした様子。

▶ その後、麻薬↑、内服の処方なくなり薬局で訪問することがなくなっていった。

▶ 6/12永眠

## 振り返って

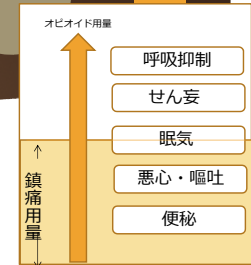
▶ 今回は痛みの進行も早く、鎮痛と副作用のバランスをとるのがとても難しくかったと思う。

▶ 麻薬のベース量の減量や増量のタイミングについては、本人が痛みのない状態を希望していたことから、家族に十分な説明をした上でもう少し早めに増量していく選択肢もあったかと思う。

ご家族の願いをどこまでくみ取り処方に反映させるか、難しさを感じた。

本人の「眠ったままでも良いから痛みを取りたい」という希望が情報としてこちらに伝わったのは後半の方だったため、そういう治療の方向性をもう少し早く決めていれば、こちらでも聞き取る情報や伝える情報は違ったものになっていたかもしれない。多職種の情報共有の重要性。

▶ 自宅で看取ると決めた家族は、その覚悟の中に“刻々と変化していく患者の状態”を想像していたのだろうかと思う事がある。日々不安が生まれ、その覚悟が揺らぐ事もあると思うが、多職種で密に連携し情報を共有しながらそれぞれがもつ専門性を発揮する事でそれを解決していきたい。



ご清聴ありがとうございました。

この発表に関する利益相反はありません。